



デンマークで進むデジタルヘルス①

国際社会経済研究所 (NECCグループ) 主幹研究員

遊間 和子



産性の向上を図るとしている。高い満足度

世界で類をみないスピードで進む少子高齢化に対し、わが国では、健康・医療・介護

立ち上げ、「国民の健康確保のためのビッグデータ活用推進本部」を

取り組みをさらに進めるとした。

具体的には、ロボットの人工知能(AI)を強力に推進している。国連の「電子政府

野におけるICT(情報通信技術)化やデータ活用である「デジタルヘルス」のさまざまな取り組みが進められている。

8つのサービス

厚生労働省は、2017年1月に部局横断組織である「データへ

民・患者・利用者の目

民・患者・利用者の目

日本に先駆けて、デジタルヘルスにより

線に立つて、最先端技術を導入できる環境の整備や健康・医療・介護のデータの収集・有機的な連結、利活用の

578万人だが、福祉国家であると同時に、公共サービスの情報化を強力に推進している。国連の「電子政府

でも第1位と、最も情報化が進んでいる国と評価されている。国連

でも常に上位に位置し、19年はフィンランドに次ぐ2位と、国

ケア情報の活用基盤整備

「CCPR」が記載される場合、個人番号で立ち上がり、自分自身のカルテ情報も閲覧できるなど、デジタルヘルスのインフラ整備が進んでいる。(金曜日に掲載)



医療保障カード(コペンハーゲン市サイトより)を示す。

デンマークでは、77年より個人医療記録「NPR」が開始された。政府の下に5地域、98市町村という構成で公共サービスを提供する。94年には、医師などの専門家の間で医療を行う病院を管轄し、最も小さな行政区である市町村は救急を含む1次医療、リハビリ、介護などを管轄する。医療や介護、出産などのケアに対しては税金が投入されており、国民の一部を除き、無料でサービスを受けられる。医療機関を受診する場合は、個人番号で立ち上がり、自分自身のカルテ情報も閲覧できるなど、デジタルヘルスのインフラ整備が進んでいる。

インフラ整備

03年には、医療の専門家と患者の双方が利用できるヘルスケアポータル「Sundhed.dk」(デンマーク)